網走桂陽高校　図書だより　2021/11/11 発行　　文責：川口修平

ほんよも

（両面印刷）
No.016

新着図書が入荷しています！①

しばらく発行が滞っていましたので、今回は両面印刷にしました。この間に新着の図書が続々と入荷しています。ぜひ遊びに来てください。何冊か紹介します。

【漫画】

○『Dr.STONE』（全２０巻）

全人類が石化した世界。その数千年後に奇跡的に石化から復活した天才高校生・石神千空が科学の力を使って文明を復活させようと奮闘する。「科学の面白さがわかる！」と評判です。

○『コウノドリ』（全３２巻）

産婦人科医とピアニストの二つの顔を持つ鴻鳥サクラを主人公に、産科医療の現場を描く。綾野剛さん主演でドラマ化されました。「性に関する講話」の講師の先生もこの作品に言及しておられました。

○『マンガ日本の古典』（全３２巻）

『古事記』から始まり、『源氏物語』や『今昔物語』など、日本の古典文学作品を、そうそうたるメンバーが漫画化。古典の授業の予習復習や受験勉強にも役立ちます。

○『鬼滅の刃』（全２３巻）

もはや説明は不要でしょう。竈門炭治郎の生き方から「折れない心」を学んでください。「霹靂」などの漢字の勉強にもなります。２１巻だけ近日入荷予定。

～誰が加害者で誰が被害者なのか～
『護られなかった者たちへ』（中山七里）

内容・あらすじ

舞台は震災の爪痕が残る宮城県。仙台市の公務員・三雲が、手足を拘束された状態の餓死死体で発見されます。三雲は公私ともに善人として知られており、容疑者が全く浮かびません。続けて、県議会議員の城之内が三雲と同じように手足を拘束された餓死死体で発見。城之内も人格者として有名で、人に恨まれる可能性は考えられず。捜査は行き詰まります。

しかし、二人がかつて塩釜市の福祉保険事務所で同僚だったことがわかり、それが突破口となって容疑者が浮上します。やがて明らかになった犯行の動機は悲しすぎるものでした――。

川口先生の感想

涙なくしては読めない作品です。テーマは「震災」、そして「貧困」。フィクションとはいえ、「こんなひどい話があるのか」と思ってしまいます。中盤あたりで「ああ、この人が犯人なんだな」と見当がつきます。気の毒なあまり、犯人に同情しながら読み進めていると後半でいきなり訪れるどんでん返し。それも２回。びっくりします。最後の最後でタイトルの意味が明かされるのですが、この文章がまた泣かせます。テーマ性に優れていて、ミステリーとしての完成度も高い作品でした。

現在映画が公開されていて、佐藤健さんが主演を務めています。迫真の演技でした。